

◆令和8年熊本地震災害義援金に関する御礼

平素はJBNの活動に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度発生いたしました「令和8年熊本地震」に際しましては、全国のJBN会員の皆様から多大なるご支援と心温まるお見舞い、そして多くの義援金をお寄せいただき、誠にありがとうございました。心より深く感謝申し上げます。

地域の守り手である地域工務店の全国ネットワーク団体として、皆様から寄せられた温かいご厚意は、被災された熊本県、宇城市、八代市、美里町へ義援金としてお渡しし、地域の復興

を支える活動へ大切に活用させていただきます。

全国の会員の皆様の強い結束と連帯に改めて敬意を表しますとともに、被災地の一日も早い復興を祈念いたします。

末筆ではございますが、会員の皆様の今後ますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げ、略儀ながらJBNレポートの誌面をもちまして、厚く御礼申し上げます。

令和8年9月
一般社団法人JBN・全国工務店協会
会長 安成 次次



熊本市へ義援金を贈呈



宇城市へ義援金を贈呈



美里町へ義援金を贈呈

義援金のご報告	お預かりした義援金総額	
	JBN会員から	7,986,970円
	JBN全国工務店協会から	13,030円
	合計 8,000,000円	
	義援金先	
	熊本県庁	3,000,000円
	宇城市	2,000,000円
	八代市	2,000,000円
	美里町	1,000,000円

◆令和8年熊本地震における木造応急仮設住宅建設報告

【熊本地震からの復興】

長期間住める「残す前提」の木造仮設住宅が本格化

7月に最大震度7を観測した熊本地震からの復旧が進む中、熊本県内で「長期間使用できる木造型応急仮設住宅」の建設が進んでいます。

従来の数年後の解体を前提とした仮住まいから、長期居住を見据えた「残す前提」の住まいへと、仮設住宅のあり方が大きく変わりつつあります。JBN・全建総連で構成する全国木造建設事業協会（全木協）が、この木造応急仮設住宅の建設を担っています。

1. 高性能な木造仮設住宅の特徴

建設では、熊本市の会員工務店「エバーフィールド」（久原英司社長）が主幹事会社を務め、施工は熊本県の会員工務店が担当。現在建設中の1DK～2DK（約30～40平方メートル）の平屋長屋タイプには、以下のような特徴があります。

一般住宅並みの高い性能と耐久性

コスト削減のための木杭ではなく、鉄筋コンクリートの基礎を採用。耐震性能は最高ランクの「耐震等級3」とし、高い断熱基準も満たします。塗装などの手入れを行えば長期にわたる居住も可能です。

コミュニティ構築を促す設計

隣り合う住居をデッキでつなぐ工夫が施されており、入居する高齢者などの孤立を防ぎます。この図面は、全国木造建設事業協会（全木協）が内閣府と1年かけて協議し、作成しました。

従来型と変わらない工期とコスト

一般的な建築工法とほぼ同じであるため、従来型の仮設住宅と比べても工期は大きく変わりません。メンテナンス費用などが削減できるため、トータルコストでも大差はありません。

2. 「くまもとモデル」誕生の背景と広がり

この長期利用を見据えた仮設住宅整備のきっかけは、10年前（2016年）の熊本地震に遡ります。従来の仮設住宅は原則2年で取り壊され、被災者は幾度も引っ越しを余儀なくされていました。その負担を減らすため「残せるものは残そう」という考えが広まりました。

自治体へのメリット

災害公営住宅を新たに整備する負担が抑えられます。

転用実績

市営住宅への転用のほか、集会施設（公民館や放課後児童クラブなど）としても活用されています。

全国への波及

この「くまもとモデル」は、2024年の能登半島地震でも採用されており、長期利用を検討する自治体が全国で増えています。

3. 熊本地震での木造応急仮設住宅建設における大工応援について

今回の熊本地震においては、建設戸数が急速に増えているため、応援の職人が必要数に足りない状況になっています。大工が不足している期間は、10月～令和9年2月末になります。会員の皆様からのご支援をよろしくお願いいたします。

問合せ先：JBN事務局 坂口

JBNはさまざまなご相談（技術、法律、支援等）をお受けしております。

ホームページ（トップページの最下欄）のお問合せフォームをご利用いただくか、下記へお問合せください。



【発行・お問合せ】

一般社団法人JBN・全国工務店協会 〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-4-10 京橋北見ビル東館6階

Tel. 03-5540-6678 Fax. 03-5540-6679 E-Mail: jbn@jbn-support.jp URL: https://www.jbn-support.jp

JBN REPORT

全国工務店協会

10月号

Vol. 120
2026



◆令和8年度 全国会員交流会2026 in 東京 御礼

先般開催いたしました「JBN全国会員交流会2026 in 東京」は、大盛況のうちに幕を閉じることができました。会員の皆様をはじめ、関係者や来賓の方々など約450名にお集まりいただき、改めて私たち全国の工務店のつながりの深さを確認する機会になりました。皆様のご尽力の賜物と深く感謝しております。

会員交流会は、私たちにとって大切な交流の場であり、会員の皆様のご理解とご協力によって成り立っています。本大会を通じて生まれた交流や活発な意見交換は、組織のさらなる発展に向けた貴重な財産となりました。今回得られた学びやつながりを、今後の活動に生かしてまいります。

また、皆様から寄せられるご意見やご提案は、今後の活動をより良いものにしていくための大切な指針です。お気づきの点や新たなアイデアなどがございましたら、ぜひお聞かせください。これからも会員の皆様とのつながりを大切にしながら、活動のさらなる充実を図り、皆様にとって意義のある会員サービスを提供できるように努めてまいります。

ご参加いただいた会員の皆様をはじめ、関係機関の皆様、ご協力いただきましたすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

参加の会員、関係機関の皆様、ご協力ありがとうございました。



次回 創立20周年記念大会

【開催日】2027年（令和9年）9月1日（水）・2日（木）

【開催場所】東京・ロイヤルパークホテル

今回は、上記にて開催を予定しています。東京会場で再びお会いできることを楽しみにしております。

会長あいさつ



一般社団法人 JBN・全国工務店協会

会長 安成 次次

歓迎あいさつ



全国交流会実行委員長

二宮 正志

技能グランプリ顕彰式

2026年2月28日（土）～3月1日（日）にインテックス大阪にて、経験豊富な熟練者が技を競い合う最高峰の舞台である「第33回技能グランプリ」が開催されました。

技能グランプリは、一級建築大工技能士の資格をもつ技能者が、日頃培った技能を競い、日本一を目指す全国規模の大会です。全国から35名の選手が参加し、2日間の競技に臨みました。

JBN会員工務店からは7名が出場し、うち5名が金賞、銀賞、銅賞、敢闘賞を受賞し、日頃から積み重ねてきた練習の成果を存分に発揮しました。

顕彰式では、受賞された5名に表彰状が授与され、金賞を受賞された株式会社平成建設の原田宗広様より、受賞までの挑戦の過程についてご発表いただきました。



基調講演

国土交通省 住宅局 建築指導課長 前田亮様より「建築行政の最新の動向について」と題してご講演いただきました。



神戸芸術工科大学 学長 松村秀一様より「中長期ビジョンの議論内容について」と題してご講演いただきました。



パネルディスカッション

松村先生をモデレーターとして、4名のパネリストによるパネルディスカッションを行いました。



(株) 山田建設 代表取締役
山田 崇広 様



(有) 石牧建築 取締役社長
佐原 広祐 様



(株) 沢野建設工務 代表取締役
澤野 幸樹 様



(株) 青木工務店 代表取締役
青木 哲也 様

懇親会

安成会長の開会のあいさつで懇親会が始まりました。

国土交通省住宅局長 佐々木俊一様のあいさつに続いて鏡開きを行い、林野庁次長の清水浩太郎様が乾杯のあいさつを行いました。

また、全国の連携団体から地域の銘酒をご提供いただき、参加者の皆様が各地の特色あるお酒を楽しみながら、地域を越えた交流を深めました。

会場では終始和やかな雰囲気にもまれ、参加者同士が親睦を深め、日頃の活動や今後の工務店業界について意見を交わすなど、交流会にふさわしい有意義なひとときとなりました。

歓談の後、二宮実行委員長が中締めのあいさつを行いました。

多くの会員の皆様にご参加いただき、全国の工務店同士のつながりを改めて実感するとともに、今後の活動に向けた交流を深める機会となりました。



関連事業者会員展示ブース

2日(水)正午より3日(木)午後3時まで、大会式典、分科会会場のホワイエおよびクラウンの間において、35社による出展・説明コーナーを設けました。



また、出展会社によるスタンプラリーを実施し、合計10名の方が当選しました。懇親会での抽選では5名の当選者を発表し、後日あらためて抽選を行った5名には、結果をメールでお知らせしました。当選された方の所属会社は以下の通りです。おめでとうございます。

当選会社	○(株)マツナガ	○(株)亜細亜建設	○(株)誉建設	○(株)細越工務店	○後藤木材(株)
	○(有)木匠工務店	○(有)山本建築工業	○(株)池芳工務店	○Rigolo(株)	○(一社)愛媛県中小建築業協会

1	株式会社マツナガ
2	一般社団法人日本擁壁保証協会
3	ユダ木工株式会社
4	株式会社デコス
5	nattoku住宅株式会社
6	株式会社カナメ
7	株式会社リブ・コンサルティング
8	株式会社ダイテック
8	福井コンピュータアーキテクト株式会社
9	旭ファイバーグラス株式会社
10	SMRC株式会社
11	株式会社ゼンリン東海
12	株式会社JohAbroad
13	株式会社スパーク
14	株式会社住宅あんしん保証
15	スガツネ工業株式会社
16	FREEDOM X株式会社
17	株式会社MXエンジニアリング

18	株式会社興亜通商
19	株式会社Archi Village
20	TRUSTART株式会社
21	株式会社イオグランツ
22	U-koka株式会社
23	日本ベルックス株式会社
24	株式会社アンドパッド
25	株式会社コンベックス
26	株式会社日本住宅保証検査機構
27	一般社団法人日本住宅基礎鉄筋工業会
28	ジャパンホームシールド株式会社
29	日本ボレイト株式会社
30	アットホーム株式会社
31	協立エアテック株式会社
32	一般財団法人家電製品協会
33	株式会社新建新聞社
34	ピクトグラム株式会社
35	株式会社Re:Fact

分科会

8つの分科会に分かれ、各テーマに沿ってゲストコメンテーターによる基調講演や、委員会メンバー・関係者による討論が展開されました。

既存改修委員会

法改正後のリフォームについて

「建築基準法改正後のリフォーム」をテーマに、2025年4月の法改正を受け、確認申請が必要となる既存住宅改修について、4社の工務店による施工事例や計画中の事例をもとに、実務上の課題や対応について情報共有を行いました。



国産材委員会

世界の木材情勢から見据える国産材のこれから

「輸入材が安い時代」から変化する国内外の木材情勢や、住宅ローン金利の最新動向を解説。

木材業界と建築業界の共通目標を掲げ、山・製材所との関係づくりを通じた信頼獲得など、勝ち残るための方向性を講演しました。



情報調査委員会

ストック社会における中古住宅流通について

「ストック社会における中古住宅流通」をテーマに、4社から中古住宅の買取再販やリノベーションなどの実践事例を紹介。

不動産流通WGとともに、地域工務店による中古住宅市場への参入や、ストック住宅の価値向上について議論しました。



大工育成委員会

「大工」という仕事、次の世代へ

「『大工』という仕事、次の世代へ」をテーマに、JBNが作成した「大工さん育成ガイドブック(経営・採用編)」をもとに、選ばれる地域工務店を目指し、ホワイト化や大工の社員化、採用CX(候補者体験)向上、定着率改善について、具体的な活用事例も紹介しました。



いずれの会場でも、事例に基づく具体的で実務的な意見交換が中心となり、会場からの質疑応答も活発に行われました。

木造建築委員会

工務店がつくる非住宅木造建築

「工務店がつくる非住宅木造建築」をテーマに、アルセッド建築研究所の大倉靖彦氏より、非住宅木造建築の市場動向やモデル設計、実例をご紹介いただき、地域工務店が非住宅木造に取り組む可能性や今後の方向性について学びました。



経営対策委員会

地域工務店として勝ち残る工務店事例発表

少子高齢化や法改正による市場縮小や人材不足などの課題に対し、先進的な工務店3社の事例を紹介。

新人教育やブランド力、リフォーム受注などを通じて、地域工務店が勝ち残るための方向性を議論しました。



環境委員会

全館空調の最適解を探る 性能×地域で変わる空調・換気計画の実例発表

「全館空調の最適解を探る」をテーマに、3社の先進工務店から、それぞれの地域や住宅性能に応じた空調・換気計画の実例を紹介。

断熱・気密・コストとのバランスを含め、全館空調を計画する際の考え方や実務上のポイントを共有しました。



次世代の会

次世代経営者が考える工務店経営

「次世代経営者が考える工務店経営」をテーマに、株式会社新建新聞社の三浦社長による講演と、若手経営者によるパネルディスカッションを実施。

自社の大工・社員の採用や育成方法、経営者の右腕となる人材の重要性について、議論を行いました。

